

グリーンコープ生協ふくしまの設立にむかいます

～東北の地にグリーンコープが誕生～



当日の総会に参加した、準備会、発起人会、賛同者の皆さん

福島にグリーンコープをつくりたいと願った人々により、グリーンコープ生協ふくしまが設立にむかいます。

設立発起人メンバーを中心に、生協設立条件である賛同者(300人以上)を集め、12月20日に福島市で創立総会を開催しました。発起人メンバーと賛同者の皆さんが参加し、共同理事会メンバーがオンラインで見守る中、すべての議案が賛成多数で承認されました。

現在、設立に向けて準備をすすめています。

グリーンコープは東日本大震災の支援活動の中で、福島ほかプロジェクトを通じて「子どもたちに安心・安全な食べものを食べさせたい」という福島のお母さんたちと出会い、交流を深める中で、放射能測定された安全な商品を購入したい、福島にグリーンコープをつくりたいという思いを強くしたお母さんたちは、2019年11月に準備会を立ち上げ、2020年2月には発起人20人が集まり、設立に向けて賛同者集めに入り、その後、新型コロナウイルスの影響で、思うように活動できない状況になりましたが、グリーンコープの各生協からの紹介も受け、10月下旬には、300人を超える賛同者が集まり、創立総会ができるまでになりました。

創立総会の冒頭、発起人会代表の押山謙司さんは「商品の購入だけでなく、いろいろと活動しながら、共感しあえる仲間を増やしていきたいと思えます。子どもたちに輝ける未来を残したい、生命の輝きを大切にしたい。みどりの地球をみどりのままで子どもたちに手渡すため、グリーンコープ生協ふくしまの設立にむかいます」と力強く挨拶しました。

グリーンコープは東日本大震災の支援活動の中で、福島ほかプロジェクトを通じて「子どもたちに安心・安全な食べものを食べさせたい」という福島のお母さんたちと出会い、交流を深める中で、放射能測定された安全な商品を購入したい、福島にグリーンコープをつくりたいという思いを強くしたお母さんたちは、2019年11月に準備会を立ち上げ、2020年2月には発起人20人が集まり、設立に向けて賛同者集めに入り、その後、新型コロナウイルスの影響で、思うように活動できない状況になりましたが、グリーンコープの各生協からの紹介も受け、10月下旬には、300人を超える賛同者が集まり、創立総会ができるまでになりました。

グリーンコープは東日本大震災の支援活動の中で、福島ほかプロジェクトを通じて「子どもたちに安心・安全な食べものを食べさせたい」という福島のお母さんたちと出会い、交流を深める中で、放射能測定された安全な商品を購入したい、福島にグリーンコープをつくりたいという思いを強くしたお母さんたちは、2019年11月に準備会を立ち上げ、2020年2月には発起人20人が集まり、設立に向けて賛同者集めに入り、その後、新型コロナウイルスの影響で、思うように活動できない状況になりましたが、グリーンコープの各生協からの紹介も受け、10月下旬には、300人を超える賛同者が集まり、創立総会ができるまでになりました。

共生の時代

みどりの地球をみどりのままで

2021 3月

発行：一般社団法人グリーンコープ共同理事会
編集：共生の時代・編集部
〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング3階
TEL 092 (481) 7923
FAX 092 (481) 7876
<https://www.greencoop.or.jp/>

Contents

東日本大震災から10年	2-3
東京電力福島第一原発事故から10年	4
くまもと発 キッチンカーお披露目会	5
グリーンコープが受託する生活困窮者自立支援事業	6-7
イチオシ! 木頭村 山の湧水	8

別紙にて、「放射能汚染と向きあう(放射能測定室より)」を掲載

東日本大震災復興支援募金にご協力ください
カタログGREEN51号と52号(3月8日～19日)で申し込みを受け付けています。

014 -□ 200円
015 -□ 500円

共同購入申込書でお申し込みください。
2・3面に関連記事

グリーンコープ生活協同組合ふくしま 設立趣意書

○福島県にグリーンコープ生活協同組合をつくりたい、同じ願いを共有する私たちは今、ここにつどいました。子どもたちに輝ける未来を残したい、生命の輝きを大切にしたい、緑の地球をみどりのままで子どもたちに手渡したい、私たちの共通の願いを実現するため、私たちが生活する福島県で活動を始めます。

○熱帯雨林の破壊や砂漠化の進行、地球温暖化をはじめ、地球規模で起こる環境破壊は、人類がもたらしたみどりの地球への負の遺産そのものです。核開発や原子力発電、遺伝子組み換え作物など、人類がコントロールできないものまで自然界へ放ちました。大量の化学物質の使用は、環境ホルモン問題やダイオキシン汚染など、自然環境と生命と食べものを汚染し続けています。まさに我々人類の営みによって、あらゆる種の存亡の危機がもたらされています。私たちは直面する地球規模の環境問題や食べものの不安を少しでも解消できるよう、グリーンコープが進める「生命を育む食べ物の運動」に参加します。

○経済社会では北による南からの収奪が続き、飢餓によって幼い子どもたちをはじめ毎年数万人の人々の尊い生命が奪われています。今もなお、世界各地では地域間・民族間の紛争や、国家間の大規模な戦争が繰り返されています。また、国家権力による抑圧が人々の心と身体を支配しようとする現実が横たわっています。私たちは、国や民族、人種や性別などの違いを超えて、人と人との出会いや、お互いを認め合い・活かし合える豊かな関係を大切にします。そして、次の世代の子どもたちのためにも、今を生きる大人の責任として、人と人とが連帯することによって、生命の輝きとその広がりを求めていきます。

○私たちは、人々の希望を奪い、生命の輝きを消し去ろうとするさまざまな問題の一つひとつに対して、その解決の道筋を探り、あらゆる努力を積み重ねていきたいと、その歩みを始めます。グリーンコープの掲げる四つの共生＝「人と人の共生」「自然と人の共生」「南と北の共生」「女と男の共生」を、ここに集うすべての人々と共に、一歩一歩進めていきます。

○正直・誠実・公正という価値を大切にすること、自己責任の自覚と他者への配慮を大切にすること、自立と自律、そして自治を大切にすること、これが、私たち自身が参加し、所有しつづける生活協同組合であることの信条であり、初心です。そのために、公開を原則とし、社会的責任を自覚しつつ、組合員の主権を尊重する生活協同組合でありつづけること、それを私たちの誓いとして、グリーンコープに参加します。

私たちは、グリーンコープ生活協同組合ふくしまを設立し、自立と連帯によるしなやかな組織として、「生命」と「生命の輝き」を大切にしながら活動し、今、開始します。

2020年2月2日
グリーンコープ生活協同組合ふくしま
設立発起人会

立ち上げの中心となったお2人に話を聞きました

押山さん 福島ほかプロジェクトの取り組みで、グリーンコープの食べものが子どもたちにふりかかっています。



押山靖子さん(左)と武田直美さん(右)

武田さん 福島ほかプロジェクトの取り組みで、グリーンコープの食べものが子どもたちにふりかかっています。

まわられた時に、産直びん牛乳を飲ませてもらう、そのおいしさに衝撃を受けました。産直びん牛乳を何とか購入できないかと思いつき、何度も相談をする中で、「福島にグリーンコープ生協を」となっていました。グリーンコープがある日常を望んでいましたので、今回、福島の地にグリーンコープができることで、子どもたちのために、少しは

安心できる世の中がつくれるのではと嬉しく思います。グリーンコープの取り組みで、これからは食べものだけでなく、未来の子どもたちに残せる暮らしのことも、人との関わりをとおして考えていきたいです。

品のおいしさを実感しています。グリーンコープ商品のおいしさを実感

品のおいしさを実感しています。グリーンコープ商品のおいしさを実感

※福島に住む子どもたちや家族を招待する保養の取り組み。グリーンコープは2014年から安全な食料を提供している。

3 すべての人に
健康と福祉を

7 高齢者に
やさしい社会を

11 社会参加を
促す機会を

12 つくべき
責任と役割を

2月に発生した
福島県沖の地震で
被害にあわれた皆様に
心からお見舞い申し上げます。

東日本大震災から10年 これからも手をつなぎ 助け合って生きる

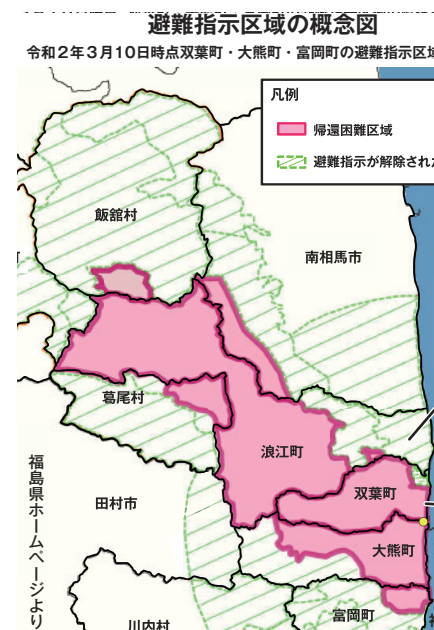
花見山から阿武隈山地を臨む 2020年12月撮影

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から10年。被災地では徐々に復興が進んでいるように見えますが、未だに安心して暮らせる状況とは言えません。グリーンコープはこれまで、公益財団法人共生地域創造財団を通じて、現地の状況に応じた支援に取り組んでまいりました。これからも、地域を再生したいと願っている皆さんに寄り添い、支援を続けていきます。

支援を行ってきた団体の活動の様子と、東京電力福島第一原発周辺の現在の様子を併せて報告します。

東京電力福島第一原子力発電所付近の現在の様子 2020年12月現在

これまで交流しつながってきた方々の、震災から10年経った現在の様子



浪江町立請戸小学校
東日本大震災の津波を受け、破壊された校舎。津波は2階の床面まで達したとされる。災害の教訓を後世に伝える震災遺構として町が整備を進めている



2011年3月、東京電力福島第一原発事故は、それまで普通に暮らし、平和な日常を過ごしてきた福島の人々から故郷や人と人とのつながりを奪いました。福島県の沿岸沿いを走る国道6号線は、事故後長らく立ち入り禁止となり、一般車両は道路を通ることもできません。福島第一原発周辺地域では現在も多くの脇道は閉鎖され、沿道の建物や歩道にはバリケードが立てられ、立ち入り禁止となっています。



子どもたちの未来のために No.151

3.11 福島を忘れない

2011年3月11日、あれから10年がたちました。真新しい道路、立派な公共施設など、目に見える復興がすすむ一方で、目に見えない放射能への不安はいつになれば解消されるのでしょうか。

現在、福島県外への避難人数は、29,307名（2020年12月の復興庁発表）、住み慣れた自宅や故郷へ帰れない人たちがいます。線量計を見ながら暮らし、子どもたちを自然の中で思い切り遊ばせてあげられない、故郷で育てた作物を食べたいけれど食べられないと思う母親たちがいます。当り前の暮らしの中にはなかった不安、その気持ちを口に出すことさえ出来ない人たちがいます。この現状が復興と呼べるのでしょうか。

東日本大震災後のグリーンコープの支援活動の中で出会った福島の人たちが、グリーンコープの安心安全な食べものを食べ、その中でグリーンコープの生命（いのち）を大切にしている取り組みに共感し、福島で生きていくからこそ、福島にグリーンコープを作りたいと賛同者300名を集めました。そして、2020年12月グリーンコープ生協ふくしま創設総会が開催され、設立に向けて準備が進められています。

これからも私たちは、福島の人たちと想いを共有し共にすすんでいきます。

グリーンコープ共同組織委員会

一般社団法人
グリーンコープでんきから

ひろがれ！ 私たちの発電所

グリーンコープ・グリーン電力出資金
11,483人 1,117,259,000円 (2021年2月15日現在)

2020年12月の売電量	
神在太陽光発電所売電量 64,200kWh 定格出力1,057kW(309世帯相当)	グリーン未来ソーラー売電量 27,235kWh 定格出力370kW(110世帯相当)
若宮物流センター太陽光発電所売電量 2,364kWh 定格出力47kW(14世帯相当)	若宮物流センター太陽光発電所売電量 2,364kWh 定格出力47kW(14世帯相当)
平池水上太陽光発電所売電量 96,868kWh 定格出力1,260kW(368世帯相当)	広島物流センター太陽光発電所売電量 3,051kWh 定格出力47kW(14世帯相当)
深年太陽光発電所売電量 144,828kWh 定格出力1,550kW(453世帯相当)	グリーンコープやまぐち生協西郷地区本部太陽光発電所売電量 2,305kWh 定格出力45kW(16世帯相当)

「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いをかなえるために、グリーンコープ・グリーン電力出資金に協力しましょう

心の灯りをともそう

3・11 キャンドルナイト

でんきを消して、スローな時間をすごしながら、本当に大切なものは何かを考えよう！

「震災で亡くなられた方への追悼」「被災地の復興への願い」そして「原発のない社会への願い」。

さまざまな思いを胸に、でんきを消して、キャンドルの灯りをともしましょう。

南相馬市 福島県
グリーンコープから寄贈された残留放射能測定器を使って、測定活動を行っています。

ふくいち周辺環境放射線モニタリングプロジェクト

2012年から丸9年間、毎月1週間かけて南相馬市を中心とした空間、土壌の放射線を測定しています。メンバーは、週末を中心に泊まり込んで被災地の土壌を採取し、測定を行っています。グリーンコープさんから2015年に寄贈いた

だいたナインシクレイション測定器2台を活用しての測定は、信頼性の高いものです。年々、空間線量は下がってきていますが、土壌からは依然高い値が出ています。活動していく中で困難な場面に直面することもあります。測定

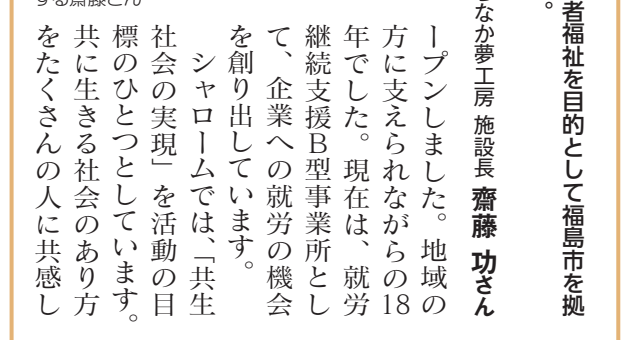
末永伊津夫さん



福島市 福島県
地域づくり・障がい者福祉を目的として福島市を拠点に活動しています。

(社)シャローム福祉会 まちなか夢工房施設長 齋藤 功さん

まちなか夢工房は、2003年に障がいのある人と健常者が一緒に働いていけるパン屋としてスタートしました。現在は、就労継続支援B型事業所として、企業への就労の機会を創り出しています。シャロームでは、「共生社会の実現」を活動の目標のひとつとしています。共に生きる社会のあり方をたくさんの人に共感し



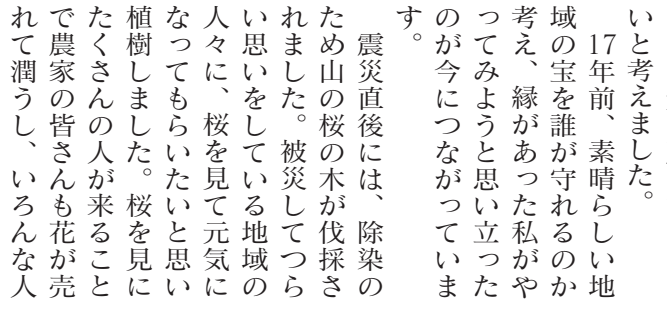
てほしいと、町の中に活動の場をつくり、地域の方とメンバーが関わる場をつくり、大事にしています。パンを通して地域との関わりを循環を創ることをテーマに取り組んでいます。コロナ禍で雇用の機会も少なく、障がい者を取り巻く環境は厳しくなっています。地域で孤立している人々を支えるためにも、助け合いの地域づくりがますます必要だと考えています。

葛尾村 福島県
福島県葛尾村は、現在一部の帰還困難区域を除き避難指示が解除されています。村の再生に向けて、地域の中で活動が始まっています。

一般社団法人 葛尾創造舎代表 下枝 浩徳さん

葛尾村に戻ってから3年。故郷で暮らすこと、戻ってきた人とこれからの地域づくりをどうするか、どのように生きていくかを考えてきました。支援する者と支援される者に分けられることに違和感がありました。誰もが自分自身で生きていくべきです。尾村のこの集落が好きで、おじいちゃんおばあちゃんからの伝統を引き継いでいきたいと考えています。新しい人々と新しい集落をつくりたい。さまざまな相談を進めていくところ。学校もお店もつくりたいし、新

原発事故は、放射線量の国、国の補償金、土地をめぐる争いなど、人との絆や信頼関係に大きな亀裂を生んでしまいました。地域のコミュニティが壊れてしまったことが何より悲しい。つらいことを言い続けても前に進めないと思いつつ、これからの暮らしのことを考え、人の気持ちに寄り添い続けること、今の葛尾村でできることをしたいと考えています。



花見山 福島県
花見山は、四季折々の美しい情景が楽しめる場所です。震災以前から、山の整備や農業活動を行っています。花見山を守る会、震災後、コミュニティの場としてサロン活動を行っています。

NPO 花見山を守る会代表 高橋 真一さん

今から20年前に緑あつて移住してきました。花見山には約20軒の花農家がありましたが、時代と共に後継者がいなくなったり、高齢で手入れができなくなり、雑木林になってしまったところもありました。人々の憩いの場である花見山をできるかぎり元に戻していきたいと考えていました。

震災直後には、除染のため山の桜の木が伐採されました。被災して思いを失った地域の人々に、桜を見て元気になってもらいたいと思い植樹しました。桜を見に来る皆さんの人が来ることで潤うし、いろんな人



また、会では、震災直後から福島県の震災孤児支援を行っています。卒業生や学生がボランティアとして来ています。子どもたちそれぞれの思いや悩みもあると思うので、そつと見守るような支援をしてきました。

植樹したマツが防風林として役に立つ大きさ（約15m）になるまでには、早くも20年かかります。植えたら終わりではなく、マツの成長には適切な管理が必要です。

後継者不足、行政による支援の終了など、課題はたくさんありますが、グリーンコープさんに相談のついでにたいいていことは大きな励みになっています。

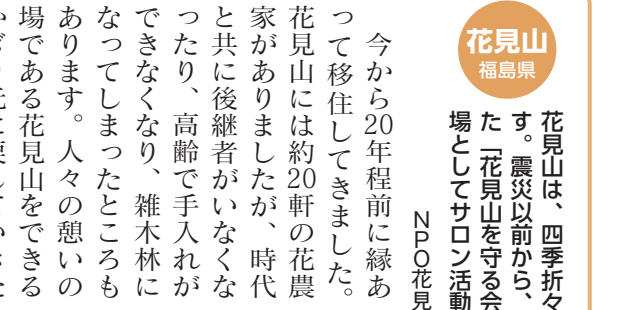
宮城県 亘理町
「震災で失われた海岸林を取り戻したい」という地域住民の思いからスタートした、わたがしプロジェクト。海からの強い潮風や高潮などから沿岸地域を守る防風林の再生を目標としています。

NPO 法人 わたりグリーンベルトプロジェクト 代表理事 齋藤 一夫さん

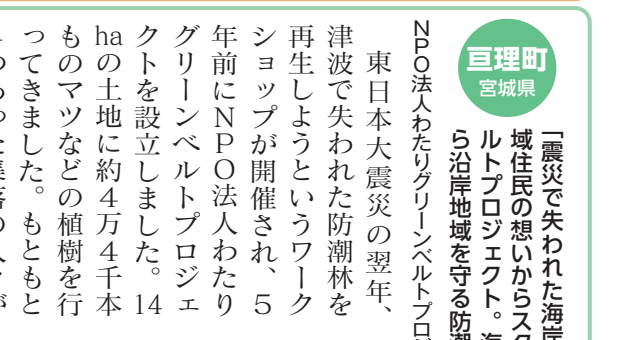
東日本大震災の翌年、津波で失われた防風林を再生しようというワークショップが開催され、5年前にNPO法人わたりグリーンベルトプロジェクトを設立しました。14haの土地に約4万4千本のマツなどの植樹を行いました。もともと4つあった集落の人々が防風林の管理をしていますが、震災後集落はすべてなくなりました。

植樹の経験もあり、よく育つことが分かってきた落花生。「ガツツリ」という大粒の品種で甘みが強いこの落花生を、本格的に栽培していきたいと考えています。

後継者不足、行政による支援の終了など、課題はたくさんありますが、グリーンコープさんに相談のついでにたいいていことは大きな励みになっています。



わたがしプロジェクトは、わたがしプロジェクトの活動を通じて、地域の活性化や防災意識の向上を図っています。



わたがしプロジェクトは、わたがしプロジェクトの活動を通じて、地域の活性化や防災意識の向上を図っています。

原発のない未来のために共に考えよう

あの未曾有の事故から10年。福島の状態を伝えるメディアでは復興した側面が強調されていますが、実は未だに解決されていない問題、深刻さを増している問題が大きく横たわっています。

にもかかわらず、政府は2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロの「脱炭素社会」をめざす方針を掲げ、その実現のために原子力政策を推進するとしています。

10年経った今も山積する福島第一原発をめぐる問題について知り、原発のない未来をつくるために私たちに何ができるか、共に考えていきましょう。

東京電力福島第一

原発事故から10年。

未だ終息の

目途は立たず、

多くの問題が

根深くあることが

年を経るにつれ

明らかになっていきます。



浪江町からみた福島第一原発
(2020年12月撮影)

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任

▼福島県沿岸部のいたる所にある除染土の仮置場。除染土が入ったフレコンバッグが積み上げられている。



一般の20倍の放射線量で避難解除

国は原発事故からの復興を世界にアピールするため、オリンピック開催予定に合わせるかのように2020年3月にJR常磐線を全線復旧させ、帰還困難区域の一部で避難指示を解除しました。

日本では、一般公衆の放射線被ばく線量の限度は原子炉等規制法により年間1ミリシーベルトと規定されています。しかし福島では放射線量を引き下げることが難しく、事故の終息を急ぐ国は、住民の避難指示解除の基準を年間積算線量20ミリシーベルトとしました。



2020年の開通に合わせて新しく建て替わったJR常磐線の大野駅(大熊町)。人影はない。すぐそばの建物には帰還困難区域のバリケードが。

廃炉へのロードマップは机上の空論

業の十分な進捗、地元自治体や住民との十分な協議も解除の要件。

福島第一原発の廃炉については、国が中期ロードマップを策定しており、事故後30〜40年後に廃炉の完了が予定されています。

しかし、使用済み燃料プールからの燃料取り出しが困難な状況が続いている。

原発事故の低いつけは電力会社ではなく国民に

高い放射線量の中での長時間作業が難しい中、廃炉を急ぐために、現場では毎日約6千人が除染を中心とした作業に当たっています。作業員は随時募集され毎月何百人と入れ替わっており、危険な作業に未熟練者が従事しているのです。

考えるのは私たち一人ひとり

原発事故の処理をどう進めるのか、膨れ上がる費用は誰がどのように負担するのか、国民一人ひとりが考えていくべき問題です。都市圏の電力を賄うためにつくられた原発。その事故によって福島の人々が重い負担を強いられる、今もお苦しんでいることを、忘れるわけにはいきません。

こうしたことは決して他人事ではありません。生活に必要な電気をどのようにつくり、使うのかについても、生命を守り安心して暮らせる社会をつくるために、一人の人間として考えていきましょう。

事故処理には難題が山積! 国民みんなで考えていくべき問題では?

溜まる一方の汚染水 環境放出させる政府方針

年間5〜6万トン増え続けている汚染水は、2022年夏にはタンクに満杯になるとして、政府はその処理策を検討し、海洋放出する方針が示されている。

浄化処理した汚染水には、最後まで処理できないトリチウムが推定860兆ベクレル含まれる。国と東京電力はトリチウムの健康への影響はほとんどないと説明しているが、専門家の間では意見が分かれている。また、トリチウム以外の放射性核種も含まれており、二次処理してもどの程度残留するかは不明で、安全性は確認できない。

福島県内の各団体、特に漁業者からは海洋放出に断固反対の声が上がっている。政府は2020年10月に海洋放出を決定する予定だったが、延期せざるを得なかった。

※溶け落ちた燃料デブリの冷却水と、原子炉建屋とタービン建屋に流入した地下水が混ざり合うことで発生した汚染水。浄化処理して福島第一原発敷地内のタンクに貯蔵されている。

全国の公共事業で 除染土の再利用計画

福島県内で除染により取り除いた土(除染土)は、福島第一原発に隣接する中間貯蔵施設に集め、貯蔵開始後30年以内に福島県外で最終処分する計画になっている。

しかし、環境省は除染土すべてを県外で処分するのは難しいとして、8000Bq/kg以下の除染土を県内外の道路等の公共事業や農地造成に利用するという方針を出した。原子炉等規制法では、100Bq/kg以上(セシウム換算)のものは放射性廃棄物となり一般の製品に使えないことになっているが、その80倍のレベルのものを再利用しようというもの。覆土しても災害等で除染土が崩落や流出する恐れがある。

すでに福島県内の数カ所で除染土を再利用する実証事業が行われているが、住民の反対の声も大きい。

※1 Bq/kg
※2 グリーンコープの自主基準値は10 Bq/kg

汚染木材を 処理するための バイオマス発電

福島県田村市では、県内の木材の樹皮から作ったチップを燃料とするバイオマス発電所が建設された。今年春からの営業を予定している。福島県では森林の除染はしておらず、樹皮には10万Bq/kgを超えるものがあるとの指摘もある。燃焼によって放射性物質が拡散する可能性がある。燃料チップの放射能は100Bq/kg以下に制限するとしているが、サンプリングでの検証しか行われていない。

飯舘村でも同様のバイオマス発電の計画が進められている。

11 住み続けられるまちづくりを

17 パートナシップで目標を達成しよう

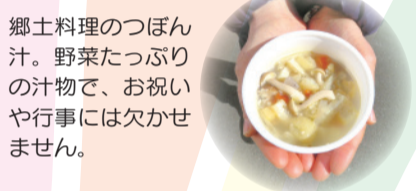
キッチンカーが完成しました!

復興への願いを込めて 地域の皆さんに 温かい食事と元気を届けます

グリーンコープ生協
くまもと発



元気くんといっしょにけんけん！
子どもたちは勝つとお菓子をもらって大喜び



会場では朝市も開催され、くまもとの共同購入や食育のワークスなども参加しました。ファイバーリサイクルの日用品や衣類、軽食や産直野菜の販売もあり、子どもから大人まで大好評でした。



テープカットの様子 左から、県南地域理事長の馬淵早苗さん、理事長の高濱千夏さん、キープ&ショップ人吉の御園豊子さんと栗原文子さん

昨年、豪雨災害では、川が氾濫により汚泥が建物内に流れ込んだため、衛生状態が非常に悪く、被災者のために炊き出しをしたくても、公民館などの施設を使うことができませんでした。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、支援のために避難所に入ることでもできませんでした。現在も避難生活を続ける方がたくさんいます。高齢者の多い地域では食事に困っている方も多く、車を流されて買い物に行けない方もいます。

そのような状況を目の当たりにした組合員から、「キッチンカーがあるといいのに」という声が上がりました。くまもとの理事会を中心に検討をはじめました。キッチンカーの購入が決まると、まず製造してくれるメーカーを探しました。ポディのデザインはくまもとの活動組合員を対象に募集し、集まった9案の中から投票で決めました。コロナなど内部の設備も意見を出し合って決めました。で

令和2年7月豪雨災害では、熊本県の球磨川が氾濫し、流域は広範囲にわたり甚大な被害に見舞われました。グリーンコープ生協くまもとは、発災直後から現地に入り、組合員、ワークス、職員が力を合わせて、被災された方に寄り添った支援を続けています。

くまもとは、被災された皆さんにキッチンカーで温かい食事を届けたいという思いで、組合員から寄せられたカンパ金を活用し、キッチンカーを作ることになりました。1月10日に熊本県人吉市の「キープ&ショップ人吉」で行われた、お披露目会の様子を紹介いたします。

炊き出しの支援で活躍します

き上がりを心待ちにしていた組合員からは、キッチンカーの誕生に歓声が上がり、現在はグリーンコープ共同購入・所有し、現在は熊本県内で活躍しています。今後はグリーンコープの全地域で、活用していきます。

キッチンカーのお披露目は大盛況でした

当日はお天気にも恵まれ、地域の方がたくさん集まりました。「家が全部流されて仮設住宅にいます」「1階が浸水して今も台所が使えません」と話される方や、「災害が起きた直後にグリーンコープから生活応援セットが届き、本当に助かりました」という声もありました。

今後は、キープ&ショップ人吉を運営する「手とてとて」が、キッチンカーの運営も担います。お披露目会では「手とてとて」のスタッフがキッチンカーを使って調理した、ミネストローネや郷土料理のつぼん汁が大好評でした。

グリーンコープ生協とっとり 理事長 小椋 あけみ

昨年、グリーンコープ生協とっとりは、前身生協の設立から30周年という節目を迎えていました。先輩組合員が生協の立ち上げに懸けた熱い思いや行動を、改めて振り返り、感謝の気持ちで、次の30年に向かう新たなスタートラインに立つことができました。

「私たちの生協」は「私たちの暮らし」そのものです。次の30年、グリーンコープに集う私たちが、「私たちの生協」を、「私たちの暮らし」を、どうしたいのか…、子どもたちにどんな未来を贈りたいのか…、みんなで考え、語り合っていきましょう。私たちの願いがひとつずつ実現していく様子をイメージして、ワクワクしながら、日々を積み重ねていく…。

そんな私たちでありますように！

投票でデザインが決まりました!



見た人が元気になるようなデザインを考えました

キープ&ショップ人吉 手とてとて 副代表 栗原 文子さん

見た人が明るい気持ちになれるようにカラフルなデザインにし、グリーンコープの安心・安全な野菜や果物のモチーフを散りばめました。模様隠れた3つの元気くんをぜひ見つけてください。

夢がかたちになりました

グリーンコープ生協くまもと 理事長 高濱 千夏さん

熊本地震の支援で、グリーンコープの強みは、炊き出しでの食事の提供だと思いました。その時の経験があったので、豪雨災害の支援ではすぐに動くことができました。ただ、今回の水害では、手作りのお弁当は届けられましたが、炊き出しができず、キッチンカーの必要性を強く感じました。キッチンカーを作りたいという組合員の強い思いが、人とのつながりや縁を引き寄せて完成することができました。

くまもとの組合員の多くは熊本地震で被災し、たくさんの方に助けられたので、豪雨災害では被災された方を助けたいという強い気持ちがありました。夢がかたちになりました。今後は、炊き出しを続けながら、地域の方のコミュニティとなるようなサロン活動などを計画しています。

温かい食事でも人の輪を広げていきます

キープ&ショップ人吉 手とてとて 代表 御園 豊子さん

今日から私たちがキッチンカーを使って、温かい食事を届けていきます。仮設住宅や住宅地の公園などを回り、地域の方の輪を広げていきたいと思っています。

災害直後は、支援される側も支援する側もみんな疲れていました。そんな状況の中、食べることで少しでも元気になってほしいとの思いがありました。

暖かくなったら、ゆっくりお話しができる出張カフェでも出来たら良いな、と思います。



つながり合い、支え合う地域社会を共につくっていくために グリーンコープは、生活困窮者自立支援の 事業を受託し、取り組んでいます



手指の消毒や検温、面談室でのアクリル板の設置や換気など、感染予防対策を徹底して相談者に対応しています

子ども支援オフィスとは

2016年3月に県が策定した「福岡県子どもの貧困対策推進計画」に基づき、福岡県が子育て世帯に特化して県内5カ所の困窮者相談室内に設置。子どものいる家庭の困窮者についてワンストップで相談できる窓口。

グリーンコープが受託する生活困窮者自立支援事業

福岡県内5カ所にある「くらし・しごと・家計困りごと相談室」(以下、困りごと相談室)は、県郡部にお住まいの方を対象に、お金のこと、就労のことなど、生活の中の問題についてワンストップの相談窓口として、社会福祉法人グリーンコープが福岡県から委託を受け運営する自立相談支援事務所です。

その一つ、福岡県水巻町にある相談室には、グリーンコープの自立相談支援員、家計改善支援員、就労準備支援員が常駐。さらに「子ども支援オフィス」も併設され、子どものいる家庭の困りごとに関する相談支援もしています。

新型コロナウイルスの影響により相談件数が急増する中、支援員同士が連携して相談者に伴走支援しています。

一人でも多くの人が幸せになれるようお手伝いしたい。家計改善支援員 今泉弥生さん

昨年10月に比べて相談件数は3〜4倍に増えていますが、自営業や非正規社員で収入が不安定だった人など、これまでなかなか耐え忍んできた人たちの困窮の度合いが増しているように感じます。

困ったことがあればいつでも相談できる場所です。支援の様子について話を聞きました

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、経済的に困窮する人が増えています。誰もが生活困窮に陥る可能性がある今、お互いが助け合い支え合う地域社会がより一層必要とされています。

共に生きていく地域社会を築きたい

2006年の開設以来グリーンコープの生活再生相談室で培われてきた経験や実績は、国の「生活困窮者自立支援制度」の事業の一つである家計改善支援事業のモデルになっています。

生活困窮者自立支援制度が重要なセーフティネットに

2020年4月の緊急事態宣言以降、グリーンコープが受託する自立相談支援事業や

グリーンコープの「ひとやもの」を活かした支援

生活に困窮する方は、経済的な問題だけでなく、いくつもの困りごとを複合的に抱えていることが多いです。

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

自立相談支援窓口

2015年度に施行された国の制度。従来は福祉や医療など内容ごとに分かれていた相談窓口を一つにし、行政や民間組織などが連携して、生活困窮者を包括的に継続して支援する制度。官民のネットワークを活かし、生活困窮者本人の自己選択、自己決定に寄り添った支援を行い、その人らしい自立を実現することを目指します。

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

家計改善支援とは

家計状況の「見える化」と根本的な課題を把握し、相談者が自ら家計を管理できるように、状況に応じた家計計画の作成、相談支援、関係機関へのつなぎ、必要に応じて貸付のあっせんなどを行い、早期の生活再生を支援する。

子ども支援オフィスとは

2016年3月に県が策定した「福岡県子どもの貧困対策推進計画」に基づき、福岡県が子育て世帯に特化して県内5カ所の困窮者相談室内に設置。子どものいる家庭の困窮者についてワンストップで相談できる窓口。

グリーンコープ生協ひろしま 八尾 泰枝

私の好きなグリーンコープ商品

国産黒豆きなこのクリーム

一昨年の年末に、みんな家族が揃うので、お試しに食べてみようという思いで国産黒豆きなこのクリームを購入していただきました。

投稿募集

私の好きなグリーンコープ商品

投稿募集

私の好きなグリーンコープ商品

グリーンコープエリア内の生活困窮者自立支援事業の受託状況(2021年2月末日現在)

都道府県	受託自治体	家計改善支援事業	自立相談支援事業	その他
福岡県	県域(糟屋郡・遠賀郡・鞍手郡・朝倉郡・三井郡・三浦郡・八女郡・京都郡・築上郡・嘉穂郡・田川郡)	○	○(子ども支援オフィス含む)	○(就労準備支援)
	北九州市	○	○(社協とJVF)	
	久留米市	○	○	
	那珂川市	○	○	○(就労準備支援)
	みやま市	○	○	○(就労準備支援)
	古賀市	○	○	○(就労準備支援)
	宮崎市	○	○	○(就労準備支援)
	大川市	○(就労準備支援)	○	
	田川市	○	○	
	春日市	○	○	
大牟田市	○	○		
太宰府市	○	○	○(就労準備支援)	
小郡市	○	○		
糸島市	○	○		
筑紫野市	○	○		
柳川市	○	○	○(就労準備支援)	
新宮町	○(子ども支援オフィス含む)	○		
神戶市	○(就労準備支援)	○		
岡山市	○(就労準備支援)	○		
山口県	県域(和木町、平生町、田布施町、上関町)	○	○	
	宇部市	○	○	
佐賀県	県域(全10町)+嬉野市	○(就労準備支援)	○	
	佐賀市	○(就労準備支援)	○	
	鳥栖市	○	○	
	川棚町	○	○	
長崎県	県域(上五島町、佐々町、川棚町、波佐見町、東彼杵町、長与町、時津町)	○	○	
	対馬市	○	○	
	平戸市	○	○	
熊本県	県域(熊本市、玉名市、山鹿市、菊池市、水俣市、天草市を除く全域の39市町村)	○	○	
	県域(大津町、西原村、南阿蘇村、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町、山都町)	○(熊本県支援)	○	
	菊池市	○(就労準備支援)	○	
	山鹿市	○	○	
大分県	県域(日出町、玖珠町、九重町、姫島村)	○	○	
	大分市	○	○	○(子ども支援オフィス含む)
	宇佐市	○	○	
	由布市	○	○	
	豊後大野市	○	○	
	臼杵市	○	○	
鹿児島県	県域(大崎町、東串良町、錦江町、南大隅町、肝付町)	○	○	
	日置市	○	○	
鹿儿岛市	○	○		
枕崎市	○	○		

生活困窮者自立支援全国研究交流大会が開催されました

2021年1月11日には、ライフサイクルを見通した支援が重要だということを学びました。

さらなる困難な状況に陥る子どもや女性

新型コロナウイルスの感染拡大は、社会的に立場の弱い子どもや、10代の若い女性に大きな影響を与えています。

家計改善支援は暮らしを守る大切な支援

分科会3では、震災やコロナ禍などにより困窮する人が増える中で、相談者に寄り添い続けることで見えてきたことについて、参加者みんなで考えました。

支援現場に広がる課題

2021年1月11日には、ライフサイクルを見通した支援が重要だということを学びました。

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先

生活困窮者自立支援制度のしくみ

困りごとの内容と支援のつなぎ先



木頭村 山の湧水 1.8ℓ×6本



旧木頭村(現・徳島県那賀町木頭)は、豊富な水量と透明度を有する那賀川の源流に位置し、「木頭ゆず」の産地としても全国的に有名な地域です。その豊かな自然を守るため、住民が力を合わせてダム建設を止めた歴史もあります。

「木頭村 山の湧水」は、旧木頭村にある剣山系の山の中腹から湧き出る水を、美味しさや風味をできるだけそのままパックに詰めました。長期保存可能なので、ご家庭での備蓄にも最適です。

山の湧水

木頭村

わきみず



地域の人々が守り抜いた豊かな自然が育む水

飲料水を販売する場合には、熱殺菌が義務付けられています。しかし高温で殺菌すると、湧き水に含まれるミネラル分が凝固して、本来の美味しさや風味が損なわれてしまいます。「木頭村 山の湧水」は、牛乳の低温殺菌と同様に、ミネラル分

低温殺菌で風味を大切に

「木頭村 山の湧水」は、山から湧き出る水を、ポンプなどを使用することなく自然取水しています。その美味しさは、地域住民だけでなく、遠方からも水を汲みに訪れる人が絶えないほどです。

名水百選に選ばれる美味しさ

旧木頭村は、徳島県と高知県の県境、四国の霊山として名高い剣山の麓にあり、年間降雨量が3000ミリを超える地域です。山々に降り注いだ雨は地下水となり、ミネラルを蓄えながら長い年月をかけて山の中腹から湧き出てきます。

「木頭村 山の湧水」をまだ取り扱っていない店舗でしたが、パッケージを急遽準備し、被災した方々に届けました。その後災害時の備蓄のためにも取り扱うことになりました。現在も熊本地震など多くの災害支援の現場で活用されています。

備蓄や災害時にも

グリーンコープでは、「木頭村 山の湧水」をまだ取り扱っていませんでしたが、パッケージを急遽準備し、被災した方々に届けました。その後災害時の備蓄のためにも取り扱うことになりました。現在も熊本地震など多くの災害支援の現場で活用されています。

「木頭村 山の湧水」は、山から湧き出る水を、ポンプなどを使用することなく自然取水しています。その美味しさは、地域住民だけでなく、遠方からも水を汲みに訪れる人が絶えないほどです。

長期保存を可能にした「こだわりの紙パック」

一般には、ペットボトル容器がほとんどですが、より環境にやさしい紙パック容器を使っています。酒の紙パック容器を製造していたメーカーと共に開発に取り組み、試行錯誤の結果、紙の表面にケイ素セラミックを蒸着させることで長期保存が可能に。日本では他に類を見ないこだわりの容器を開発することができました。

豊かな自然を資源にして地域活性化をすすめています

一生き残る方法、豊かな自然環境を守っていくことです。地域の宝である豊かな自然や農産物を使った事業や製品開発を行うことで、地域経済を活性化したいと考えています。



グリーンコープで取り扱っている商品の一部

カタログGREEN52号で「木頭村 山の湧水」と「木頭ゆずしほり9000ml」「木頭ゆずまんじゅう(30g×8個)」を企画しています。

「木頭村 山の湧水」は、牛乳の低温殺菌と同様に、ミネラル分

「木頭ゆず」は、香り高く豊富な果汁が特長です。

「木頭ゆず」は、香り高く豊富な果汁が特長です。地域ではその果汁を「ゆずの酢」と呼んでおり、それぞれの家庭で手搾りしたゆずの酢をいろいろな料理に使っています。

「木頭村 山の湧水」は、山から湧き出る水を、ポンプなどを使用することなく自然取水しています。その美味しさは、地域住民だけでなく、遠方からも水を汲みに訪れる人が絶えないほどです。

地域の「宝」を商品に

20年以上にわたるダム建設反対運動には、全国の環境保全活動家などもかわりました。私もその一人です。ダム建設を止めた後、当時の村長から声がかかり、(株)きとうむらの経営を引き継ぎました。

豊かな自然を資源にして地域活性化をすすめています

一生き残る方法、豊かな自然環境を守っていくことです。地域の宝である豊かな自然や農産物を使った事業や製品開発を行うことで、地域経済を活性化したいと考えています。



(株)きとうむら 代表取締役 日野 雄策さん



加工品の工場を、地域の子どもたちが交流見学している様子

2021年1月の組合員数 428441人 (1/20現在)			
リユース、リサイクルデータ 2020年12月分(回収率)			
牛乳びん 回収率 99.6%	トレー 回収率 40.0%		
リユースびん 回収率 51.5%	仕分け袋 回収率 9.9%		
モールドパック 回収率 68.4%	カタログ 回収率 67.9%		
フードマイレージ 2021年1月に組合員の利用によってたまったのは			
6,484,384.3		CO2に換算して648トン削減したことになります	
2009年9月からの累計は、843,493,952.8ポコ			
アジア民衆基金 2021年1月に組合員の利用によってたまったのは			
536,188円			
2009年4月からの累計は、80,132,251円			

「木頭村 山の湧水」は、山から湧き出る水を、ポンプなどを使用することなく自然取水しています。その美味しさは、地域住民だけでなく、遠方からも水を汲みに訪れる人が絶えないほどです。

やりがいと誇りを

「木頭村 山の湧水」は、山から湧き出る水を、ポンプなどを使用することなく自然取水しています。その美味しさは、地域住民だけでなく、遠方からも水を汲みに訪れる人が絶えないほどです。

豊かな自然を資源にして地域活性化をすすめています

一生き残る方法、豊かな自然環境を守っていくことです。地域の宝である豊かな自然や農産物を使った事業や製品開発を行うことで、地域経済を活性化したいと考えています。

「木頭村 山の湧水」は、山から湧き出る水を、ポンプなどを使用することなく自然取水しています。その美味しさは、地域住民だけでなく、遠方からも水を汲みに訪れる人が絶えないほどです。

豊かな自然を資源にして地域活性化をすすめています

一生き残る方法、豊かな自然環境を守っていくことです。地域の宝である豊かな自然や農産物を使った事業や製品開発を行うことで、地域経済を活性化したいと考えています。

豊かな自然を資源にして地域活性化をすすめています

一生き残る方法、豊かな自然環境を守っていくことです。地域の宝である豊かな自然や農産物を使った事業や製品開発を行うことで、地域経済を活性化したいと考えています。

「木頭村 山の湧水」は、山から湧き出る水を、ポンプなどを使用することなく自然取水しています。その美味しさは、地域住民だけでなく、遠方からも水を汲みに訪れる人が絶えないほどです。

豊かな自然を資源にして地域活性化をすすめています

一生き残る方法、豊かな自然環境を守っていくことです。地域の宝である豊かな自然や農産物を使った事業や製品開発を行うことで、地域経済を活性化したいと考えています。

豊かな自然を資源にして地域活性化をすすめています

一生き残る方法、豊かな自然環境を守っていくことです。地域の宝である豊かな自然や農産物を使った事業や製品開発を行うことで、地域経済を活性化したいと考えています。

※下記一覧表の結果の「検出せず」は、検出限界値を超えての検出はなかったことを表しています。

Table with 16 columns: 番号, 商品分類, 商品名, 原料産地, 製造地, 製造日・収穫日等, 測定日, 検査法, ヨウ素-131 (結果, 検出限界値), セシウム-134 (結果, 検出限界値), セシウム-137 (結果, 検出限界値). Rows include various food items like fish products, tea, and processed meats.

